

令和7年度 園長等管理協議会

教育・保育の質的向上を図る 園評価を生かしたマネジメントについてⅡ

大学院学校教育研究科
(教職大学院)

幼児教育コース 佐々木 晃



I. 前回の振り返り



1. 厳しい幼児教育界の現状と 課題を踏まえて

①. 保育者の平均年齢が若く平均勤務年数が短い
問題克服

若年離職者が多い

②. 幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領・
保育所保育指針の実践と実践の質向上

③. 教科書のような主たる教材を用いない「環境を
通して行う教育」の難しさ克服

2. 成長し続ける組織のマネジメントとは

組織って？

「ある目的を達成するために、分化した役割を持つ個人や下位集団から構成される集団」

つまり、

目的達成のための集団だという点が骨格になりますが、それ以外のポイントは、役割分担がはっきりしている個人や団体が構成メンバーであるということです。

園の組織マネジメントの役割

- 自分の園に特有の使命を果たす。
「私は今置かれている園の目的を果たすために存在する」という信念。
- 仕事を通じて働く人たちを生かす。
「職員・保護者・小学校はじめその他の関係者とよい関係をつくり成長し合う」姿勢。
- 社会の問題について貢献する。
自らが社会に与える影響を考える。

組織成立の3要件

本講義では、チェスター・バーナード(アメリカの経営学者)が提唱した組織が成立するための3つの条件のことを指します。

「共通の目標」

行動を進めるにあたって、実現・達成をめざす水準

「コミュニケーション」

「協働の意欲」

後ほど、実際のケースを見ていただきます。

II. 本日のテーマ

教育・保育の質的向上を図る

園評価を生かしたマネジメントについてII

1. 有浦保育園さんの取組に学ぼう！

前年を評価・反省してバージョンアップしていく

【保育の重点】・安心、安全な環境を作る。 ・丁寧に伝える保育をする。

「安心・安全」

～かけがえのない命を守る～

- ・避難訓練、不審者対応訓練
- ・交通安全指導・交通安全教室
- ・避難訓練や交通安全指導実施後の様子を保護者へ掲示
- ◆安心安全(ヒヤリハット)会議
- ◆アレルギー会議 ・食育
- ・安全管理マニュアルの周知
- ◆安全点検簿、園内外環境の見直し
- ・エビベン研修 ・AED研修・嘔吐処理研修
- ・安全計画 ◆人権擁護チェックリスト

「幼保小の連携」

～小学校との円滑な接続と
継続的な育ちに向けて～

- ・公開保育参観 ・5歳児授業参観
- ★小学校教諭による保育士体験
- ・幼保小連携会議 ●架け橋プログラム
- ・保育要録 ・発表会見学
- ・公孫樹だより ・園だより
- ・幼保小連携だより ・不審者対応訓練
- ・1年生対象ようこそ先輩(夏・冬)
- ・児童館へ園だよりの配付
- ・カトリックこども園年長児と交流
- メディアコントロール週間
- ・有浦小保健委員会

「子育て支援」

～保護者の受容と自己決定を
支援する～

- ・月1回1週間自由保育参観
(希望により随時保育参観可能)
- 保護者の保育士体験
- ・虐待防止 ・個人面談 ・育児相談
- ・園、クラス便り ・本日の保育の掲示
- ・育児講演会 ●メディアコントロール
- ★すき間時間の遊びの紹介 ★祖父母交流会
- ・保護者アンケート、保育園の自己評価
結果公表
- 絵本の貸し出しの推進
- ★保護者向けの本の貸し出し

「特別支援教育」

～みんなで共に育ち合う
(インクルーシブ)保育～

- ・比内支援学校教育専門監による
指導助言
- ・児童発達支援センターひまわりと連携
- ・保護者面談 ・育児相談
- ・個別の支援計画、指導計画
- ・園内発達支援会議
- ・比内支援学校教育専門監講話会
- ・満5歳児すてっぷ相談

「ふるさとキャリア教育」

～地域の中で様々な人と
関わり育つ～

- ・こどもハローワーク
- ・職場体験学習(小・中学校)
- ・インターンシップ(高校)
- ・保育関係実習生
- ・学生ボランティア
- ★老人ホームふれあいの里有浦

「職員の資質向上」

～様々な学びを重ね保育力アップを目指す～

- 園内研究(環境の構成と援助) ・ミニ公開 ・要請訪問
- ・園内研修 ・他機関研修 ・研修伝達
- ・オーダーメイド研修 ・苦情受付、解決
- ・保護者アンケート ・保育所の自己評価
- ・園関係者評価 ・自己評価チェックリスト
- ◆若手保育士勉強会 ◆本日の保育の提示
- ◆クラスだより ◆〇〇週間の実施

★は今年度あらたに取り組むところ ◆は今年度の重点目標と関連するところ ●は園として特に力を入れるところ

今後の見通し

- ・9月、それぞれの職務について前期の反省、評価をして後期につなげ、保育の質の向上を目指し園の組織も高めていけるようにしていく
- ・保護者、職員との良好なコミュニケーション作りについては、報告・連絡・相談はもちろんのこと1つ1つ確認を怠らないことを再確認していく (わかっているはずと思わない)
- ・**園関係者評価委員会**においても園内外での取り組みを積極的に発信し、助言をいただきながら取り組みの改善につなげていく

関係者評価委員会は、文字通り園の関係者、応援団！
ともに全していく頼もしいパートナーです。

2. 本荘中央こども園さんの取組に学ぼう！

「地域にひらかれた教育課程」を実践しようとしている

4. 今後の見通し

保護者や地域住民の信頼に応え、家庭や地域社会と連携・協力し、一体となって乳幼児の健やかな成長を支えていく ※アクションプログラムより

園評価を生かした園運営にむけて

- ・全方位的な評価(偏りのない評価項目)だろうか
- ・強みを生かしているかどうか
- ・弱みは何だろうか？
- ・園で計画している内容が地域にどう伝わっているか
- ・地域から見える園とは・・・？

課題を明らかにする

次年度にむけて

- ・今年度末に出てきた評価を全職員で話し合い、次年度の計画につなげる

地域に開かれたこども園

評価項目とその尺度が明確

別紙2

令和7年度 学校評価

本荘中央こども園

項目	番号	評価内容	1 達成されていない	2 達成に向けて 努力している	3 ほぼ達成さ れている	4 達成されてい る
教育課程・指導	1	内面理解や保育を見取る必要性や具体的な方法を、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに全職員で共通理解している				
	2	一緒に遊んだり、一人一人の遊びを見取ったりして、子どもの思いを共有したり気づきを認めたり、遊びが広がるように環境を再構成したりする保育を行っている				
	3	各クラスで保育を公開し、互いに参観・協議することで、保育の理解に努め、保育力向上を目指している				
	4	週案等で、内面理解と保育の見取りについての自己評価を取り入れ、改善策を見出している。				

3. にこにここども園さんの取組に学ぼう！

保育を構造化してみんなで共有しやすくマネジメントできている

資料4 職員皆で、園をつくっているという気持ちをもちたい。

令和7年度 にこにここども園全体的な計画

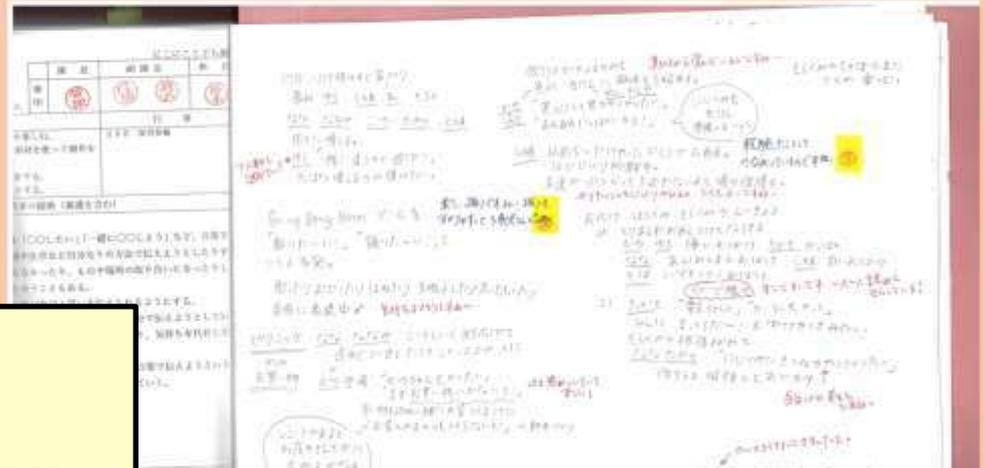
<p>社会福祉法人はなきき仙北の基本理念 ～子どもたち一人一人に花を咲かせよう～ 子ども達が夢と希望をもち心身ともに健やかに成長し、郷土を支える豊かな花を咲かせることができるよう、信頼される法人として、地域社会に貢献します。</p>	<p><園目標> 心豊かに たくましく ひろがれ にこにこの輪 <教育保育方針> 豊かな心を持ち、生き生きと活動する子どもの育成</p>	<p>秋田県が目指す子どもの姿 心・体いきいき、思い切り遊ぶ子ども</p>
<p>今年度の重点 優しさを 輪からあい 自分らしく遊べる子ども キャッチフレーズ 「にこにこ いっしょに」</p>		
<p>園の経営方針 ○子どもの資質・能力を育む、温かく豊かな保育者の創意工夫に溢れる保育の実践。 ○職員一人一人が思いをもち発言し合い、やりがいをもって保育にあたる園づくりを目指す。</p>	<p>目指す保育者の姿 ○心身ともに健康で明るい保育者 ○子どもの命を守り、一人一人を大切にする保育者 ○感性豊かで創意に満ちた保育者 ○研修に励み、保育の質の向上に努める保育者 ○チームワークを大切にし、共に高め合う保育者</p>	<p>目指す子どもの姿 ○思いを伝え合いながら、生き生きと活動する子ども ○情緒豊かで思いやりのある子ども ○すすんで物事に取り組み、葛藤や困難を乗り越えていく子ども ○自然や動植物に関心をもち、命を大切にしている子ども</p>
<p>研究主題 やってみたい やってみよう 自ら心を動かして遊ぶ子どもを目指して ～やりたいが継続するための援助や環境を探る～ 各年齢の研究の視点 0歳児～安心できる保育者と一緒に探求活動をする中で、身近な人やものに興味・関心をもつ子ども 1歳児～一人一人が自分の思いを安心して表現しながら、興味や関心をもってやってみたいことに向かって楽しむ子ども 2歳児～安心できる環境のもと、保育者や友達と関わったり、様々な思いを表現したりしながら伸び伸びと遊ぶ子ども 3歳児～様々なことを自分なりに考えたり、友達や保育者と伸び伸びとやりたい遊びを楽しんだりする子ども 4歳児～自分の思いを伝えたり、相手の思いに気付いたりして、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ子ども 5歳児～相手のよさに気付く。友達と思いや力を出し合いながら、一緒に活動する</p>	<p>特別支援 ○特別な支援を必要とする子どもが、安心して生き生きと生活できるように、園全体でその子どもの発達過程や心身の状態を把握し、定期的に話し合う場を設け職員の共通理解を図る。また、国内外において特別支援教育の研究を受け、保護者や関係機関、市内の園小中と連携を取りながら支援に取り組んで行く。</p>	
<p>安全教育 ○日常生活の場面で安全な生活習慣や態度を身につける。 ○様々な危険を想定した対応や、体制づくりと環境の整備を行う。 ○危機管理マニュアルの整備と徹底を図る。</p>		
<p>食育の推進 ○バランスの取れた給食を実施し、食べることの楽しさを伝える。 ○よく遊び、お腹が空くことによって喜んで食べることを大切にしていく。 ○望ましい食習慣と感謝の気持ちを育てる。 ○年間を通じて栽培やタッピングに取り組み食料や調理等への関心を広げる。</p>		
<p>小学校との連携・地域との連携 ○園と小学校の職員が教育・保育の内容や指導方法の違いについて相互理解を深め、円滑な接続に向けた望ましい連携を図る。 ○参観や交流を通して、小学校や園についての理解や、子ども同士、教職員同士のつながりを深める。 ○地域の良さを知り、身近な人と関わる。 ○紙風船上げ等、地域の行事に参加する。</p>		
<p>子育て支援事業 ○子育て支援拠点事業 ・未就園の親子を対象に遊びの場や仲間づくりの場を提供する。(なかよし広場) ・保護者の相談に応じ情報提供や支援をする。 ・子育て家庭への情報誌配布。 ○一時保育事業 ○預かり保育事業</p>		

令和6年度園内研修～令和5年度の自己評価の課題から



- ★「SOAP」の視点を取り入れた保育記録の取り組み。
- ★管理職の指導計画へのアドバイス記入。

資料②1 励ましのコメントはたくさん書かれているが、保育指導になっているとは、言えなかった。（モチベーションアップには、つながった。）



資料3 ヒヤリハット

いつ、どこで、何歳児に、何があったかを記入して貼る。
対処が必要なものにはどうしたかまで書く。
月の職員会議でひと月分を職員周知し、意識を高める。



4. 鳴門教育大学附属幼稚園では・・・



幼稚園設置の目的

「目的」は、「目標」に比べ抽象的で長期にわたる目あてであり、内容に重点を置いて使っています。

教育方針

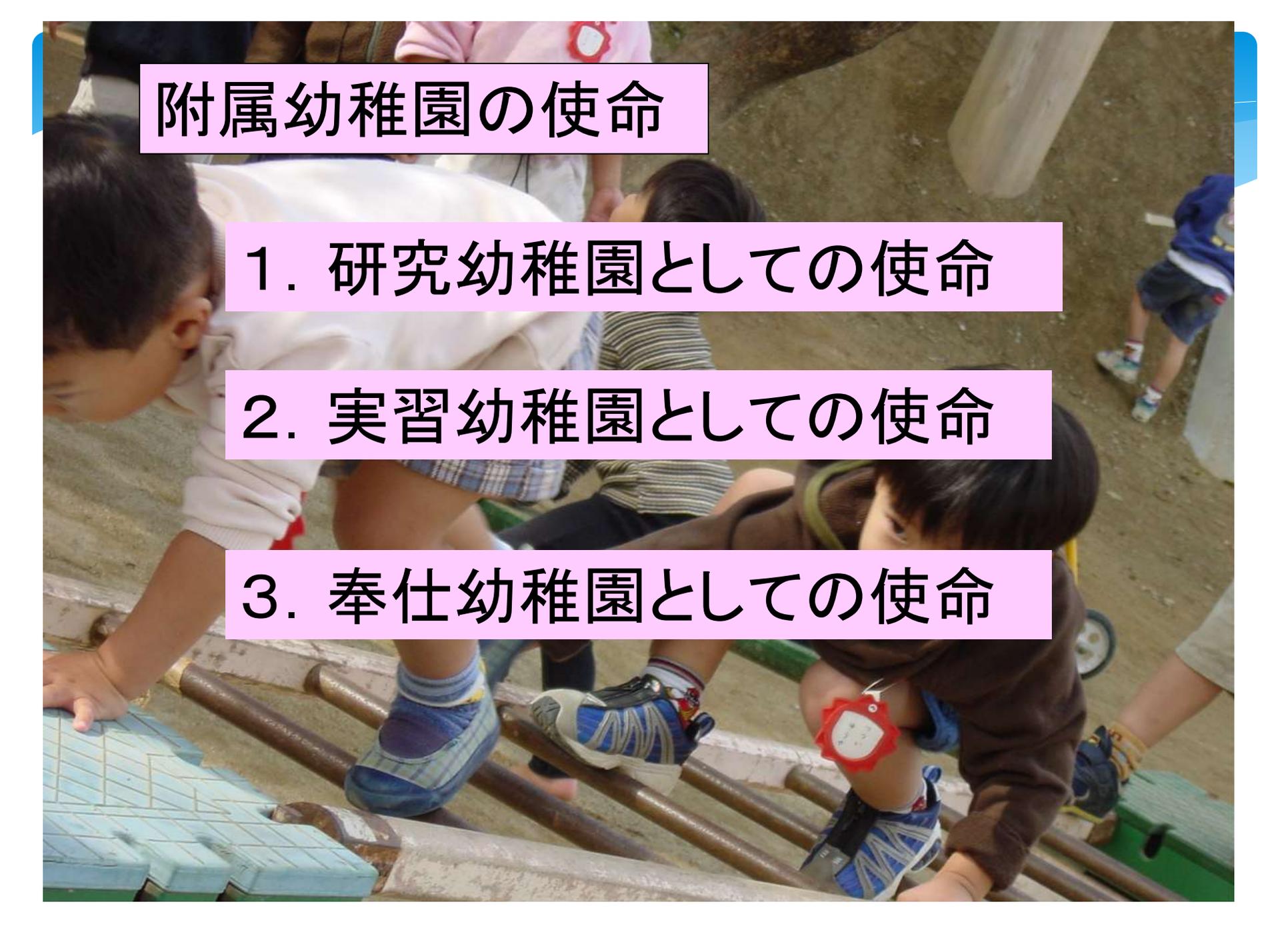
本園は教育基本法、学校教育法及び国立学校設置法にもとづいた幼稚園教育の実現及び附属幼稚園としての使命を達成すること



教育目標

本園は学校教育法第77条および第78条に示されている幼稚園教育の目的・目標の達成を期待して、次のような目標を掲げている

1. 自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを培うこと
2. 健康でたくましい心身をはぐくむこと
3. それぞれのよさや違いを認め合う感性を養うこと
4. 身近な環境に対する興味や大切にしようとする心情を養うこと
5. 喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと
6. 創作的表現に対する興味を育てること

A photograph of children playing on a playground structure. The children are wearing colorful clothing and shoes. One child in the foreground is wearing a white shirt and blue shoes. Another child is wearing a brown jacket and blue shoes. The structure consists of wooden beams and blue plastic components. The background shows a dirt ground and other children in the distance.

附属幼稚園の使命

1. 研究幼稚園としての使命

2. 実習幼稚園としての使命

3. 奉仕幼稚園としての使命

保育の基本姿勢

人の生涯の基盤となりうる「人間性」を養う保育を旨ざしている

1. 真に子どもたちのための保育を創造すること
2. 豊かな環境作りを重要な任務とすること
3. 子どもらしく遊ぶ生活を創造すること
4. 子どもたちの可能性を信じて、一人一人に合わせた指導をすること
5. 子どもと共に子どもの自治を大切にした園生活を営むこと

教育課程(それぞれの期の過ごし方)

月 年限(組)	4月～5月	6月～7月	9月～10月	11月～12月	1月～2月	2月～3月
	ぼくの わたしの 一日		みんなの力を出し合って		自信をもって確かな歩みを	
3年保育 3歳児 (星)	I せんせいとぼく・わたし そして ともだち	II せんせい そして ともだち	III 楽しい幼稚園 好きな遊び	IV 好きな遊びを存分に	V わたしと ともだち —一緒にする楽しさ—	
2年保育 4歳児 (月)	I せんせい そして ともだち	II 大好きな遊び	III ともだちとの 遊びを求めて	IV 自分の力を出し きて	V 自分の力に挑 戦	VI 仲よしが見つ かって
3年保育 4歳児 (空)	I 大好きな遊び		II	III	IV	V
2年保育 5歳児 (山)	—わたしたちの幼稚園—		II	III	IV	V
3年保育 5歳児 (川)	I ぼくは わたし は 山組 川組	自分の課題に 向かって	II ともだちと考 えを 出し合って	III 一人一人が生 かされて	IV みんなの力を 合わせて	V 主体的に生活 する喜び

その園の使命や教育目標、教育課程などは毎年たやすく変わるものではない…

しかし、全職員が参加して目標を持たなければモチベーションは上がらない…

5. 園組織のビジョンをつくろう！

3rd

「自分たちは何を創造したいのか？」→共有ビジョン

2nd



育てたい子どもの姿を明らかにする→育成課題

1st

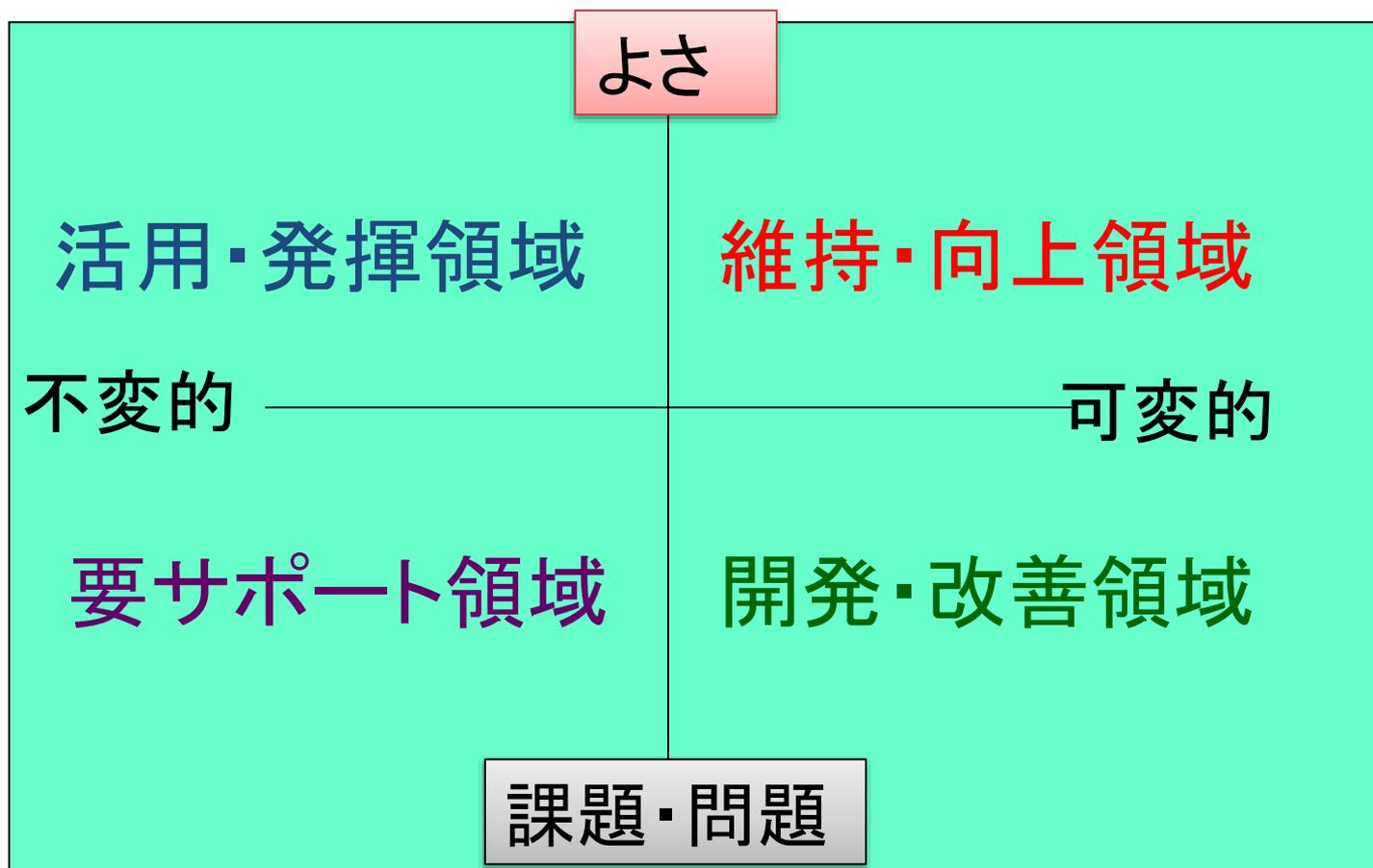


子どもや保護者・家庭の実態を共有→実践課題

参考図書「管理職のための学校経営R-PDCA 内発的な改善力を高めるマネジメントサイクル」佐古秀一，2019年 明治図書出版。

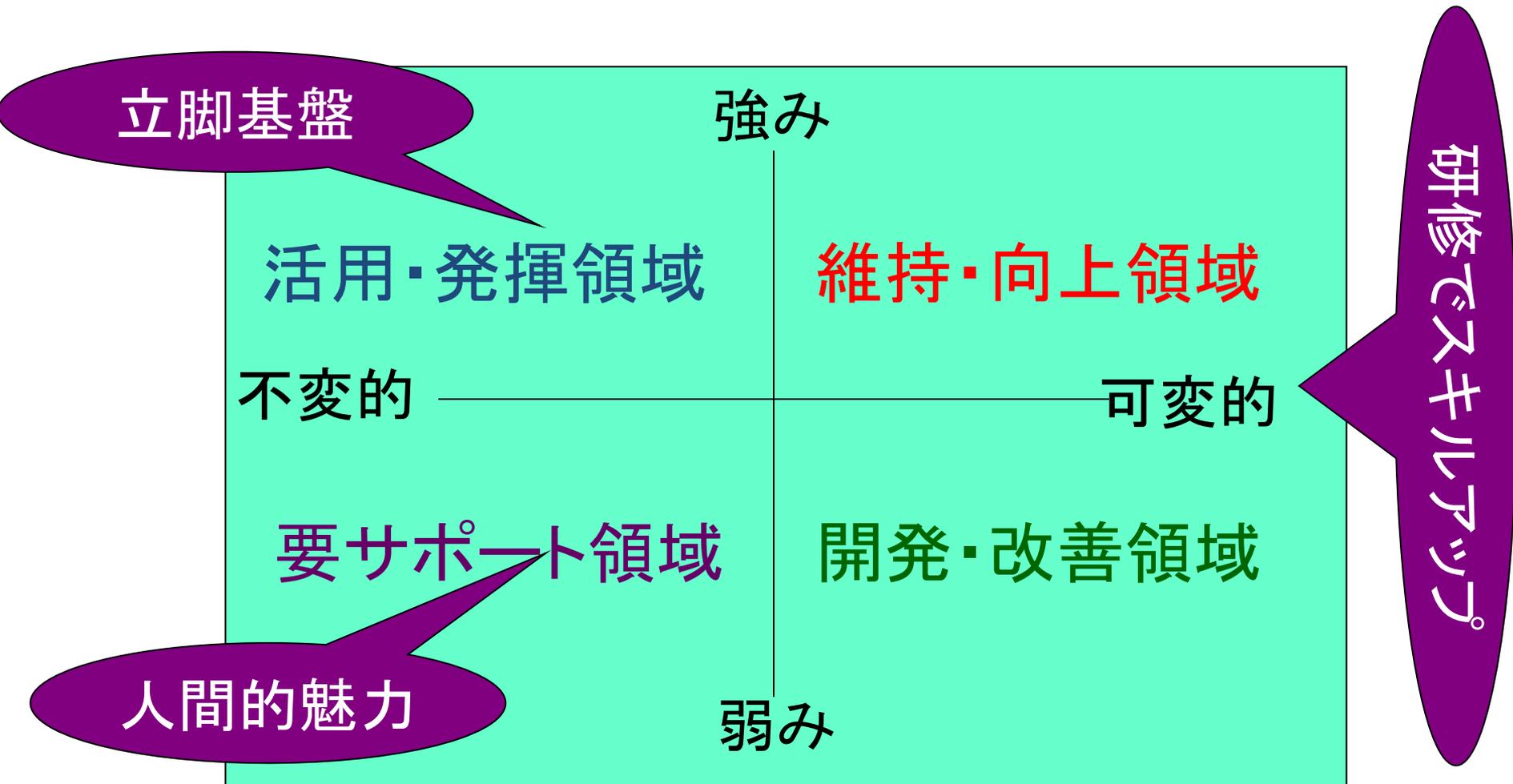
(1)「私たちの内なる資源」シートとその分析

子どもや保護者、家庭などの現状分析



(2)「私たちの内なる資源」シートの分析

各領域は何を意味するのか。



現場は仕事がいっぱい。ならば、これを活用しよう！

6. 「学校評価」を使ったマネジメントの展開

幼稚園における学校評価については、平成14年4月に施行された幼稚園設置基準において、各幼稚園は、自己評価の実施とその結果の公表に努めることとされた。

また、保護者等に対する情報提供について、積極的に行うこととされた。

さらに、平成19年6月に**学校教育法**、同年10月に**学校教育法施行規則**の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられた。

めざす子ども像

たくましい子ども

しなやかな子ども

育ちあう子ども



令和元年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の3点から教育目標の具現化を図る。

- ①新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ②「遊誘財」研究の成果を生かし、実践の質的向上を図る。
- ③大学、教育委員会との共同研究・研修を推進する。

評価項目

①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ・科学的思考を促す幼小接続の生活プラン(教育課程・指導計画)作成に関する取り組み状況

②保健安全管理

- ・保健計画の作成・実施の状況, 園の環境衛生の管理状況
- ・危機管理対策の見直しと強化

③組織運営

- ・園務分掌や主任制度が適切に機能するなど, 園の明確な運営・責任体制の整備の状況

④研究と研修

- ・幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
- ・教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況
- ・地域住民への貢献

⑤教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

⑥教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

Ⅱ 評価項目ごとの自己評価

評価項目1 教育課程・指導

(1) 観点ごとの分析

観点1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
【観点到係る状況】

幼稚園教育要領では、小学校教育との接続においてつながっていく資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、小学校と子供の姿を共有する手掛かりにしている。本園では、幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の伝統や特性を生かした教育課程・指導計画である「生活プラン」を作成している。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中の「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「言葉による伝え合い」、「協同性」、「豊かな感性と表現」、「数量・図形、文字等への関心・感覚」などは、中期目標(No.48)に掲げた一貫型教育プランの「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」でも重視している項目である。

今年度は幼稚園教育要領の趣旨を踏まえて見直した「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」を実践し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点からの評価を行った。

【分析結果と根拠理由】

「生活プラン」の月別指導計画シートを作成し、毎月これを活用した全体打ち合わせと指導の評価を実施し、カリキュラムマネジメントを行うとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点からの評価を行った。令和元年度附属幼稚園オープンスクール(来園者172名・アンケート回答者71名)のアンケート集計結果によると、本園の保育については100%の保護者及び関係者が「とてもよい」と評価している。「すべての教師が笑顔で子どもとともに遊び学んでいる。子どもたちがいきいきしている。のびのびしている。表情がよい。子どもがやりたいことをやりたいだけさせてあげている。子どもの自主性をとても感じた」などの記述からは、主体性の伸張への高評価が得られている。

教師の援助と環境の構成については、「教師が一人一人をよく見ている。子どもの意思や考えを尊重している。自由な中にもしっかりとした教育計画がある。先生が熱心。教師が子どもたちとよく関わっている。全力でサポートしてくれている。子どもが自由に自分のしたいことができる。教師の環境づくりへの心配りを感じる。季節のものを取り入れて家ではなかなかできない製作などができる。子どもの個性を生かしつつ他の幼児の個性に触発されるきっかけにもあふれている。子どもがやりたいことをとことん追求して遊ぶことができる。自然も多く園でとれたものでいろいろな作品を作って想像力をのばしている。自由がある中で、協同作業もありとてもよい」などが評価されていた。集団活動・協調性・生活習慣形成についても「伸び伸びと過ごしている時間とみんなで何かをするときのメリハリの様子が両方分かり安心した」と評価された。

教育関係者によるアンケート集計結果においても、「1. 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導について」は「大変よい」が89.7%、「よい」が9%と高かった。「2. 科学的思考を促す指導計画の実践について」は、「大変よい」が80.8%、「よい」が19.2%と高かった。

実施日	令和元年11月3日(日)	
対象	オープンスクール参観者	172名(アンケート回答者72名)
内容	1 保育について	3段階評価及び自由記述
	2 環境整備について	3段階評価及び自由記述
	3 その他感想・意見	自由記述

アンケート集計結果

○保育について

・とてもよい	72名(100%)
・あまりよくない	0名(0%)
・どちらでもない	0名(0%)
・記入なし	0名(0%)

○環境整備について

・よく整っている	70名(97.2%)
・もっと整えて欲しい	0名(0%)
・どちらでもない	1名(1.4%)
・記入なし	1名(1.4%)

保育について自由記述の概要

【子どもたちの様子】

★子どもが生き生き・のびのび・楽しく

- 子どもが自由にのびのびと活動していた。日頃の先生と子どもたちのかかわりあい、そうさせているのだと思う。
- 子どもたちが笑顔で楽しんでいる姿を見ることが多く、遊びの中からいろいろ学んでいるところがとても良いと思う。
- みんな楽しそうでとてもよいと思う。
- 自由保育でよいと思う。
- 子どもたちの笑顔が印象的だった。
- 自由で、子どもたちに縛りが無い。子どもたちが考えて動いて、手をさしのべるだけの良い。
- 子どもたちが自分のやりたいことをのびのび自由に行っている。
- 子どもたちの笑顔が輝いていた。(毎日休みたくないと思えるのがわかる。)
- 子どもたち主体であり、何よりも子どもたちが生き生きとしている。
- 一人ひとりにあった楽しいことや、先生と子どもたちが一緒に活動することが沢山あり、良いと思った。
- 子どもがみんなよく笑っている。
- 子どもたちが自由に、好きな遊びに熱中できている。
- どの子ものびのびとやりたいことができている。自由な中にも安全や約束事を守りなが

令和元年度 鳴門教育大学附属幼稚園 幼稚園評価アンケート

組 保護者氏名

令和2年1月18日記入

(差し支えなければ氏名をお書きください)

このアンケートは、本園の教育活動をより充実したものにすため、保護者の皆様のご意見をお伺いするものです。子どもたちのよりよい育ちのためには、幼稚園と家庭が連携協力していくことが基本です。本園の運営や教育研究活動について、日頃感じていることを率直に回答いただきたいと思います。回答の仕方は、A・B・C・Dの選択肢から該当すると思われるものに○印を付けてください。

なお、本アンケートは、後日集計し、回答をいただいた全員に結果をご報告します。また、本園学校評議員会や学校関係者評価委員会並びに鳴門教育大学附属学校運営委員会に報告し、学校評価の資料とします。

[A:そう思う B:だいたいそう思う C:あまり思わない D:そう思わない]

I 園の管理運営について

- | | |
|--|---------|
| ①園内の環境整備を十分に行っていると思われましたか。 …………… | A B C D |
| ②園内の施設・設備の安全対策や衛生管理を十分に行っていると思われましたか。 …………… | A B C D |
| ③保育料（大学に納入する授業料）は、妥当な範囲でしたか。 …………… | A B C D |
| ④諸経費（教材保育費・間食費・保育用品代等）は、妥当な範囲でしたか。 …………… | A B C D |
| ⑤みどり会費は、妥当な範囲でしたか。 …………… | A B C D |
| ⑥教育方針や活動内容を説明するために園が設けた機会（降園時・絵本貸出時
学年懇談会・教育講演会・入園説明会等）は、十分だったと思えますか。 …………… | A B C D |
| ⑦園は、保護者の保育参観や保育参加の機会をよく設けていましたか。 …………… | A B C D |
| ⑧園が保護者に出す通知やほけんなどよりなどはわかりやすかったですか。 …………… | A B C D |
| ⑨園は、保護者が相談したいときに話しやすい雰囲気になっていましたか。 …………… | A B C D |
| ⑩園では、お子様に関するプライバシーが守られていると感じましたか。 …………… | A B C D |
| ⑪園では、外部からの不審者の侵入や地震・火事などに対して安全対策を十分にしていると感じましたか。 …………… | A B C D |
| ⑫幼稚園と小学校の連携教育の成果があがっていると感じましたか。 …………… | A B C D |
| ⑬園で、大学との連携による研究成果が、教育実践に生かされていきましたか。 …………… | A B C D |
| ⑭保護者も子育てについて学び、共に育ちあう雰囲気ができていましたか。 …………… | A B C D |

II 教育活動について

- | | |
|---|---------|
| ①園の教育日数や保育時間は適切でしたか。 …………… | A B C D |
| ②園生活は、お子様の生活リズムに合っていましたか。 …………… | A B C D |
| ③園は、年齢や季節にあった行事を設定していましたか。 …………… | A B C D |
| ④お子様は幼稚園に行くことを喜んでいましたか。 …………… | A B C D |
| ⑤お子様の園での様子を参観や懇談などで知ることができましたか。 …………… | A B C D |
| ⑥教育相談では、お子様の成長や子育ての悩みについて話し合えましたか。 …………… | A B C D |
| ⑦お子様の基本的な生活習慣自立のための援助は適切でしたか。 …………… | A B C D |
| ⑧園で、お子様は元気で活発に運動し、身体機能が発達しましたか。 …………… | A B C D |
| ⑨園で、お子様は葛藤や衝突の体験を通して、人のかかわり方や社会のルール
の学びが得られましたか。 …………… | A B C D |
| ⑩園で、お子様は友達と協力したり工夫したりして遊びを楽しんでいましたか。 …………… | A B C D |
| ⑪園で、お子様は豊かな自然体験や直接体験ができていましたか。 …………… | A B C D |
| ⑫園で、お子様は遊びを通して知的好奇心や考える学びが得られていましたか。 …………… | A B C D |
| ⑬園で、お子様は人の話をよく聞き、自分なりの言葉で表現できていましたか。 …………… | A B C D |
| ⑭園で、お子様は創造的な表現活動ができていましたか。 …………… | A B C D |
| ⑮園で、お子様は様々な体験を通してイメージを豊かにできましたか。 …………… | A B C D |
| ⑯園は、一人一人の発達や心情を尊重した保育ができていましたか。 …………… | A B C D |
| ⑰教職員は、互いによく協力し合っていると感じましたか。 …………… | A B C D |
| ⑱進級進学に必要な心情・意欲・態度がお子様で育ってきていると思えますか。 …………… | A B C D |

III その他 自由記述

○これまでのⅠ-①～⑭、Ⅱ-①～⑱の32項目について、特記すべき事項がありましたら、自由に記述してください。

○大学にどのような要望をおもちですか。

○教育実習生のお子様へのかかわりで気付いたことをあげてください。

○本園の良いところや課題・改善してほしいこと・伝えておきたいこと等をお書きください。

<良いところ>

<課題・改善してほしいこと>

<伝えておきたいこと>

○みどり会の組織や事業に関する意見、各活動に参加しての学びや感想等をお書きください。

^\nツツミナ（教育講演会）・広報・自主研修活動（手作り・絵本・おやつのへやボランティア、やさしいア\n-ト、ガーデニング、音楽とともだち、おっかけっこ、かくれんぼ）駐車場他、夏期保育等への意見もお聞かせ下さい。

6. 目標管理シートの作成

様式Ⅱ-3

令和3年度 目標管理シート

主幹教諭・指導教諭・教諭用

当初申告

令和3年 5月 6日

最終申告

年 月 日

ふりがな 氏名		生年月日		年齢	29歳	学校名	鳴門教育大学附属幼稚園	職名	教諭
教科指導	(学年)	5歳児	週担当 授業時数		教科外指導		校務分掌		

学校目標 (今年度の重点目標)	①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。②「遊誘財」研究の成果を生かし、実践の質的向上と専門家養成を図る。③大学・教育委員会との共同研究・研修を推進する。
--------------------	--

評価項目	当初申告		目標の修正・ 追加・変更等	最終申告		
	今年度の目標(課題)	方策		成果・反省	評価	次年度への課題
学習指導	<p>○毎日の保育を振り返り、記録しよりよい手立てを考えていく。</p> <p>○5歳児の発達課題にあった環境の構成個々に行う。</p> <p>○教育課程を立てる際に自学級と園全体との相互性の視点も取り入れて構成していく。</p>	<p>他の幼児の視点も先生方に頂きながら、幼児の成長を考えていく。また、よりよい手立てができるように、教材研究をする。</p> <p>5歳児の発達を理解し、課題や成長につなげていくプロセスを読み取り環境構成や援助を考えていく。</p> <p>自分の学級だけでなく、園で幼児が生活していくことを踏まえ園全体での活動ができるような場や幼児への関わりを考えていく。</p>				
児童生徒指導等	<p>○幼児一人一人の状態や発達を踏まえ援助しながらも、集団と個の成長も大事に関わっていく。</p> <p>○幼児が様々な事に興味関心を持ち、探求していきたくなるような環境を構成していく。</p> <p>○幼児の感じていることや思っていること等を出せるように、保育者も一緒に考えたり話したりしていく。</p>	<p>幼児の記録と指導計画・保育の省察とをマネジメントしていく。</p> <p>もの、こと、ひととの関わりがより深まるようにそれぞれの思いや、考えを出し合い遊んでいけるように援助する。そのために、まずはそのものの魅力を保育者自身が語れるように教材研究をする。</p> <p>幼児の思いを保育者だけで留めずに、幼児と一緒にその場で話あつていくようにする。幼児と共に考え答えを出していくようにする。</p>				
学級・校務の処理・その他	<p>○保護者と連携しながら、幼児の成長を考えていく。保護者の方が困っていること、聞きたいことをもっと端的にわかりやすく伝えていく。</p>	<p>幼児の様子だけでなく保育者の考えや思いも伝えていくようにする。(気になったことや感じたことをすぐに伝え、保護者に理解してもらえようとする)</p>				

研修	<p>今年度の目標・計画</p> <p>5歳児の発達を理解し個々に合った援助ができるようにする。また、学級だけでなく、園全体を取り入れて自分たちで考えたり、試したりすることができるような環境構成や援助を心がける。(今年度は、教材研究を丁寧にする。そうする中で、幼児の学びが深くなるような個々にあった援助ができるようにしたい。)</p>	<p>今年度の成果及び今後の課題</p>	特記事項
----	---	----------------------	------

令和3年度 目標管理シート

校長用

当初申告

令和3年4月12日

最終申告

令和4年 3月 15日

ふりがな 氏名	ささき あきら 佐々木 晃	生年月日	昭和39年 6月 24日	年齢	56歳	学校名	鳴門教育大学附属幼稚園	職名	園長
------------	------------------	------	--------------	----	-----	-----	-------------	----	----

学校目標 (今年度の重点目標)	①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。②「遊誘財」研究の成果を生かし、実践の質向上と専門家育成を図る。③大学・教育委員会との共同研究・研修体制を確立する。
--------------------	---

評価項目	今年度の目標(課題)		目標の修正・ 追加・変更等	最終申告		
	今年度の目標(課題)	方 策		成果・反省	評価	次年度への課題
学校経営	○学校目標の設定及びその達成	3つの重点目標の設定と学期毎の評価の実施。		各担当が幼稚園教育要領の理解を深めて実践が深まりつつある。遊誘財研究も幼児教育コースの先生達との共同研究で、より汎用できる実践例を提案できてきた。	A	A
	○勤務体制の整備と円滑な組織運営	研究発表会の隔年実施の検討と業務の合理化の工夫。		今年度も新型コロナウイルス感染症対策でリモートでの研究発表となったが、ICTを活用して合理的で効果的な発表ができた。約1200人が視聴。	A	
	○保護者・地域との連携(学校経営目標の理解促進等)	教育講演会、参観日、学級・学年懇談の講話の年間計画作成と内容の構造化。		オンデマンドでの講演会や講話を計画的に発信することができた。	B	
教育活動	○幼小接続の科学的思考力涵養プログラムを中心とした教育課程の編成・実施	月別指導計画の検討会と反省会の実施。		成果の一端を徳島県教育委員会が主催する令和3年度あわ(OUR)教育発表会で発表した。約440名の視聴は幼小中高で最高。	A	B
	○幼児理解の推進	担任による定期的な保護者との教育相談の実施。		幼児理解を進めるために発達支援センターや生徒指導の池田教授の指導を得て、難しい案件にあたった。	B	
	○学校の施設・設備の管理, 会計の管理	月ごとの園内安全点検の実施と各期毎の会計簿のチェック。		月ごとの園内安全点検の実施と各期毎の会計簿のチェックを行った。	B	
人事管理	○人事配置	個々の能力と適性を考慮した園務分掌の作成。		勝浦副園長のリーダーシップの元、個々の能力と適性を考慮した園務分掌と支援を行った。	A	A
	○服務監督	定期的な個人面談等の実施。		目標管理シートの作成時、秋休みにおける中間ヒヤリング、年度末の最終ヒヤリングを行った。	A	
	○人材育成・人事評価	主任・副主任制の実施による責任感と専門的スキルの育成。		勝浦副園長のリーダーシップの元、各部門の主任や副主任が計画的かつ責任をもった仕事ができるようになった。	A	

研 修	今年度の目標・計画 県教育委員会主催の研修会を共同で企画・運営する。	今年度の成果及び今後の課題 今年度は本園の同僚性やキャリアステージ研修の成果をもって幼児教育センターを開設することが課題である。	特記事項	今年度限りで園長は退任するが、勝浦新園長のマネジメント力やリーダーシップに大いに期待している。この1年一緒に勤務できて引き継ぎもできて有意義であった。
-----	---------------------------------------	---	------	---

研修お疲れ様です
ご清聴ありがとうございました

